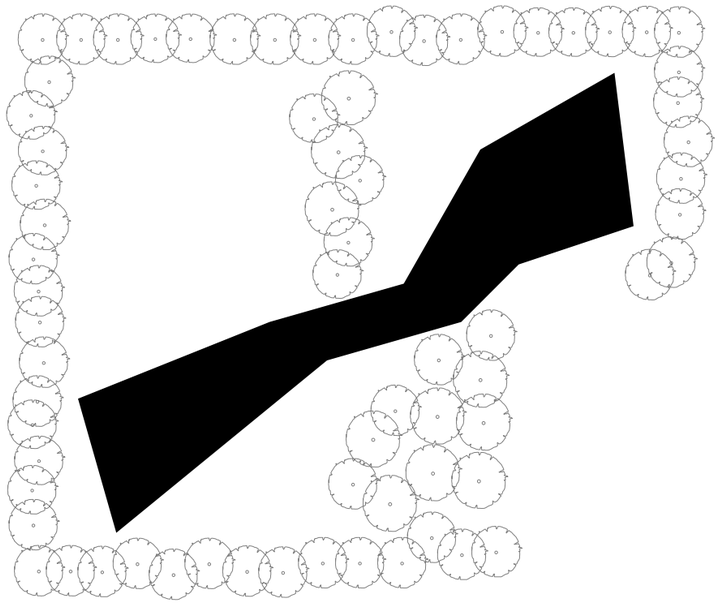
すべての葉は、日の光を受けられるようについている。

枝は、そういうふうに葉をつけられるようにのびている。

だから、樹の奥の奥まで木洩れ陽がとどくのだ。

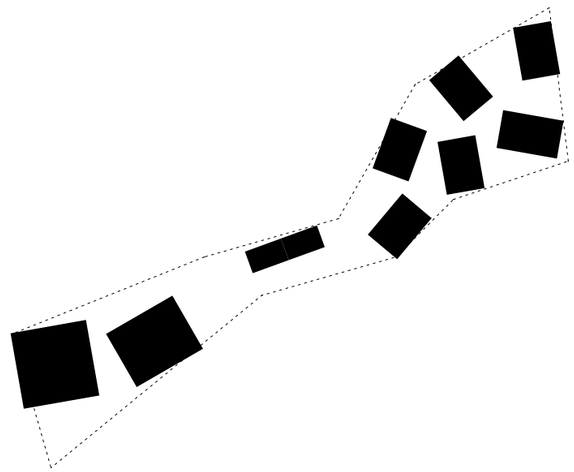
人間と建築、機能と形態、内部と外部。
これらがそういった状態におかれたとき、
日常は、非日常へと昇華する。

spaces like sunlight sifting down through the trees
ー 淘汰という進化によってうまれる多義的空間 ー



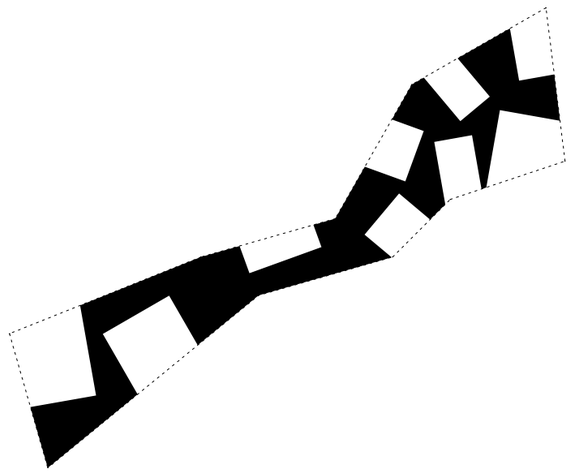
敷地の樹木に対して受動的にヴォリュームを決定する。

ヴォリュームの広がりは枝として存在する。



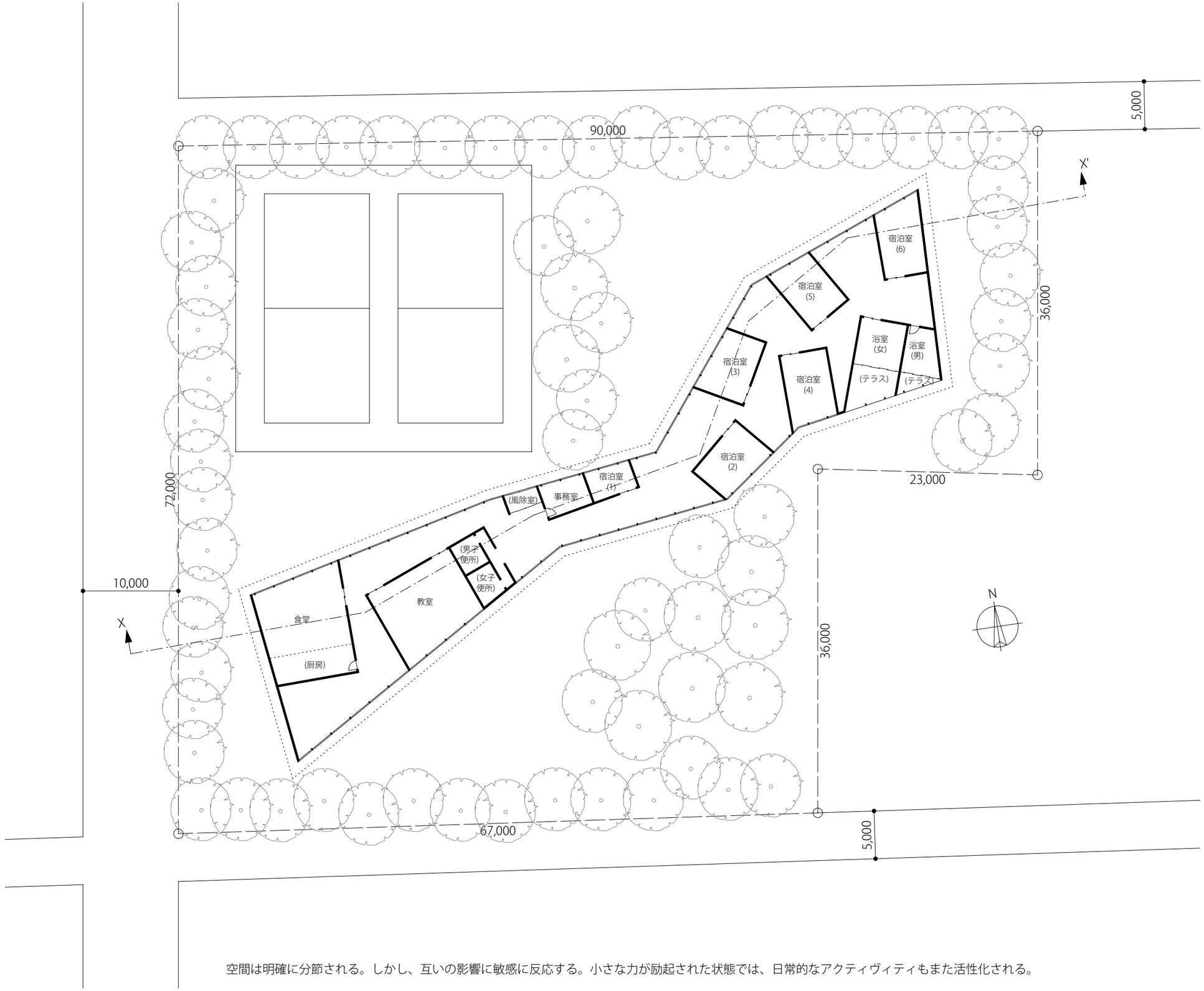
必要諸室は互いに反発するように配置する。

部屋と部屋の反発は葉として存在する。



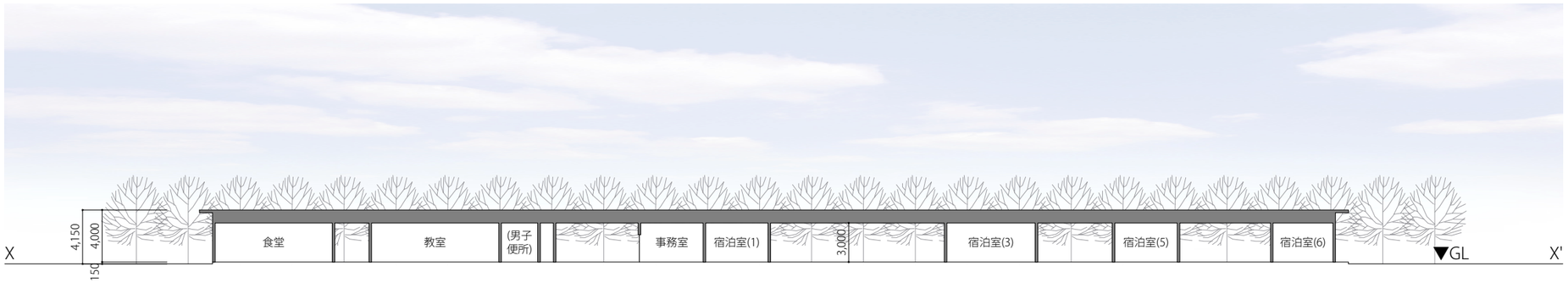
残余の空間は多孔質な状態で現れる。

表面積の大きな残余空間は木洩れ陽として存在する。



1階平面図 兼 配置図　1/400

空間は明確に分節される。しかし、互いの影響に敏感に反応する。小さな力が励起された状態では、日常的なアクティヴィティもまた活性化される。



断面図 1/400　外観パース